

Intensive Japanese (日本語インテンシブ) III (Group IV – J5-6) シラバス**科目名・曜日・時限(教室)と担当教員**

火曜 2 限 (10-102): ^{おきたゆみこ} 沖田弓子 *連絡方法はクラスで伝えます

金曜 1 限 (10-203): ^{まつしたたつひこ} 松下達彦 *****

*Group IV, J5-6 コーディネータ ^{まつしたたつひこ} 松下達彦

Eメール: *****

電話: 03-***** (研究室直通) または 内線 *****

研究室: *****

面談・アドバイスを希望する場合: 事前にアポイントメントを取ることが望ましい。

(火曜、水曜の 17 時以降、金曜の 15 時以降は研究室にいることが多い。)

対象: PEAK グループ IV の学生のみ

科目種別・単位数・期間: 必修・2 単位、S1 ターム

授業の目標、概要

この科目は上級レベル(上位 1 万語がほとんど理解できるレベル)の学生を対象とする。聴解や読解を通じて、世界や地域社会を理解するための語彙や社会文化知識を学生自身が増やしていくのを支援することを目指す。討論や論説的文章作成の基礎的な訓練も行う。文学や時事的な話題などは選択科目で扱うこととし、この科目ではいくつかのより学術的なトピックを取り上げる。また、学習や生活を自己管理する能力の向上を目指す。

より具体的には、科目の終了時まで以下に以下の諸点を実現することを目標とする。

- 1) 人文学、社会科学、環境科学などの分野の論理的な談話や文章を通じて、語彙や社会文化知識を増やす。
- 2) 丁寧な話し方や文体、くだけた話し方や文体など、多様なスタイルの日本語を使えるようにする。
- 3) 討論、口頭発表やレポート作成を通じて、多角的な視点、批判的な思考力、他者との協働によって新たな知を創造するためのマナーを身に着ける。
- 4) 知のネットワークを拡大し、社会・文化・自然に関する疑問を学術的な枠組みで考えるための知識を得る。
- 5) 言語を通じて学習や生活を自己管理する基本的な能力を身につける。

授業のキーワード

聴解 読解 学術日本語 知の創造 地域社会 学習管理

授業計画

^{べつてん} 別添のスケジュール表を参照すること。

使用教材

教科書は使用しない。生素材をユニットごとにまとめたもの(パケット)を配布する。各ユニットには以下のリスト、シートなどがある。

- 語句・表現リスト (各素材の一つ、ない場合もある)
- 読解シート／聴解シート (各素材の一つ、授業時に配布されるものもある)
- 読解／聴解 生素材
- 短文作成シート (各ユニットに2ページ1枚)

聴解の素材は別途、音声ファイルを配付することがある（授業後のこともある）。

このほか、Extensionと呼ばれる自律学習に用いるシートなど、授業に関連するハンドアウトを必要に応じて配布する。

授業の方法

本科目での学習は、授業に直接に関わるBaseline（共通課題）と、任意の内容を任意の計画で進めるExtensionに分けられる。授業(Baseline)では予習に基づいて討論等を行う。予習が不可欠である。

A) 学生に要求されること

- 指定されたテキストを読んで（または音声ファイルを聞いて）授業に参加すること。その際に、
 - テキスト中の語句の意味を確認して覚えてくること。また、漢字語の読み方を確認して覚えてくること。また、漢字語を手で書けるようにしてくること。
 - 読解シート（または聴解シート）に取り組み、「読む前に」「内容理解」「発展」（先学期と違うので注意）を書いて、授業に持参し、授業開始時に教員のチェックを受ける。
 - 短文作成シートを授業時に提出する。シートには「語句・表現リスト」の中から5つ選んで、その語句の使い方がよくわかり、かつ自分の生活に役立ちそうなオリジナルの文を作成する。また、各自がそのユニットで必要だと思う語句を「語句・表現リスト」以外からさらに5つ選んで、同様に文を作成する。
 - テキストの内容について疑問点があれば、それについて質問すること。
 - 授業内での討論に積極的に参加し、他者と異なる視点や考え方を積極的に提示すること。
- 授業の内外でのクラスメートや教員からのフィードバックを批判的に受容すること
- 「プロジェクト」として、自分で選んだ「社会問題」についてレポートを作成し、同じテーマでプレゼンテーションを行うこと。（詳細は授業内で説明する。）
- Extensionとして、4月中旬までに教科書以外の独自の日本語学習計画を作成する。自分の選んだ内容・方法で学習し、その内容を示すファイル（ポートフォリオ）を作成していき、学期末に提出する。（詳細は後日に説明する。自分が何を使ってどのような学習をしたいか、考えておこう。）

B) 担当教員の行なうこと

- 提示された授業時間において、クラスの運営を適切に管理し、ここに示した計画の通り授業を進めること。変更は、合理的かつ明確な理由を提示し、学生の了解を経た上で行うこと。
- 個々の学生のニーズとレディネス・学習環境に応じ、学習に関する適切なアドバイスや学習リソース提供を行うこと。
 - 事前に取り組む予習課題を提示すること。
 - 提出物に適切なフィードバック（表現の添削や内容に関するコメント）を与えること。
 - 授業内での討論を企画し、討論の内容に適切なアドバイスやコメントを与えること。
 - 「プロジェクト」やExtensionなどについて、必要に応じて適切なアドバイスをする。
 - 目標の達成度を、適切な基準によって評価し、各学生にフィードバックすること。

授業目標を達成するためには、上記AとBについて、学生と教員による所定の努力が必要である。

成績評価方法

以下の諸点に基づき評価する。(Baselineは必須課題を、Extensionは任意課題を指す。各項目のより詳しい評価基準については別紙参照。)

1)クラス内活動、ディスカッション	10%	最終的な成績
2)読解シート、短文作成シート	5%	A : 100~80
3)ユニット作文 (2回)	5%	B : 79~65
4)語句テスト (3回)	5%	C : 64~50
5)期末試験	35%	F (不合格) : 49~0
6)レポート	20%	
7)プレゼンテーション	10%	
8)Extension	10%	
	計100%	

※ 1)については、各教師が個別に評価する。2)~8)については、2人の教師が合同で評価する。

* 出席が70% (各教員の授業13回中10回) に満たない場合は自動的に F (不可=不合格) となる。

30分未満の遅刻・早退は3回で欠席1回と計算される。30分以上の遅刻・早退は欠席とする。

仮に出席が70%未満になっても、3学期間の「平均合格」制度があるので、授業には出席し続けること。(40点で不合格になっても、3学期の平均が50点以上ならば3学期すべて合格になります!)

* 提出物は原則として提出期限を過ぎたら受け取らない。(事故や病気により遅れて提出する場合は、証拠(例: 病院の領収証)を示すこと。)

* 語句テストを事故や病気で欠席した場合、語句テストの授業内返却日の前日までにコーディネータ(松下)に病院の領収証等の証拠を提出した場合に限り、遅れて受験することを認めることがある。

* 中間試験や期末試験を事故や病気で欠席した場合、原則として医師の診断書を提出した場合に限り、後日の受験などの代替措置を認める。

「クラス内での活動」の主な評価基準

提出物の合評、発表後のディスカッション、教員の講義に対する質疑など、クラス内での活動全般について、以下の諸点などにつき、教員の観察により総合的に評価する。

✚ 積極性、頻度	✚ 論理性・批判性
✚ わかりやすさ、発言の態度・方法	・ 根拠に基づいた議論か
・ わかりやすいか	・ 異なる視点の提示や検討があるか
・ 発言は効果的になされているか	✚ 創造性・発展性
・ 他者と議論する際のマナーは適切か	・ 新しい発想や刺激があるか
	・ 新しい課題の発見があるか

読解シート

・ 授業開始時に「読む前に」「内容理解」にまじめに取り組んだかどうかをチェックする。提出、記入がされていない場合は減点する。

ユニット作文

- ・ユニットで学んだことについて、最後に作文する。テーマによって評価基準は異なるが、学術的な文章については、レポート同様のスタイルが要求される。

短文作成シート

- ・提出、記入がされていない場合は減点する。特に優れた文には加点する。優れた文とは以下の条件を二つ以上満たす文である。
 - その語の使い方がよくわかる文
 - その人の生活に役立つことがよくわかるオリジナルの文
 - 具体的かつ独創的で、印象に残る文

語句テスト

各ユニットの「語句・表現リスト」と読解／聴解テキスト本文全体を対象とする。

- ・「語句・表現リスト」の語句、表現については使用できるかどうかをテストする。
- ・「語句・表現リスト」以外の語句は、理解できるかどうかをテストする。
(ディクテーションもあり、語句を聞いてわかるかどうか、漢字で書けるかどうか、についてもテストする。)

期末試験

語句、聴解、読解について出題する。一部は初出の素材を使用した試験となる。

詳細は、授業開始後にあらためて指示する。

プロジェクト

- ・①レポート、②プレゼンテーション の二つの活動からなる。この二つは統一的なテーマのもとに構成する。一つ一つの活動のトピックは異なってもよいが、統一テーマのもとに関連するトピックとする。詳細は授業内で説明する。
- ・最終レポートは、アカデミック・ライティングの基本的な構成、文体、引用法などの一般的なルールに従うことが求められる。

Extension

どのぐらい学習の管理がよくできているか、どれだけ努力して成果を示しているか、を主に評価する。Extensionは、主に以下の五つの観点から学生と教員のそれぞれが評価する。①目標設定・活動の選択（有用性・適切さ）、②計画性・継続性、③内容・質（過程・成果）、④分量、⑤ポートフォリオの見やすさ。進め方の詳細は授業内で説明する。

不正行為の禁止

試験におけるカンニング、提出課題における他者の著作の盗用などの不正行為は固く禁じられている。提出課題は必ず学生自身のオリジナルでなければならない。他者の著作を引用する場合は、引用の範囲または内容と、出典が明示されていなければならない。カンニングや盗用が証明された場合には、大学の規定により、当該学期のすべての科目の成績が自動的に「不可」(F)となる。

関連ホームページ

必要に応じて配布物や授業内で指示する。学生からの情報提供も歓迎する。

以上